

発刊のことば

岡 本 素 光

本学の研究紀要がいよいよ発刊されるはこびとなった。同慶に堪えない。

顧みれば、本学は開校以来漸く三年目に入ったばかりであり、校舎の増築内部の施設など、まだ十分に完備とまで行っていないのである。殊に、最も重要視している研究室の整備、図書の実充すら尚不十分である。大学の生命は研究施設の如何にあるのだから、何を措いてもその完備に努力しなければならないのであるが、如何に予算を十分に組んでも諸般の事情から、今後一兩年の時日を要する。併し、そのような事情のもとにあって、非常に喜ばしいことは、若い学者諸賢の研究意欲の旺盛なことである。学校が新しい清新なものであるからであろうか、若い学者諸賢の研究意欲は極めて旺盛である。その熱意は、教室に、研究室にあふれている。研究施設の完備は、固より必要なことであるが、併しそれにも増して必要なのは、よき研究者を得ること、研究心の盛んなことではなければならない。この点で、私は若い学者諸賢に大きな期待をよせている。

ここに集録された諸論文は、その研究の成果の一部である。実は紀要の発行は、あと一年ぐらい延ばすべきであったかも知れない。併し仮令不十分なものであっても、大学ができた以上、早く学界の仲間入りをすべきであるし、互いに切磋琢磨の必要もあるのだから早く発刊したいという諸先生の熱意が結集して、不取敢教篇の論文を集録し機関誌として世に送ることとなった。

そのような次第であるから、読者の方々は愛情と激励の心を以て、この冊子を見ていただきたい。

本学は、学部四年間の中、前半の二年間の教養課程と、短期大学とからなっている。教養課程は二年間ではあるが、東京本校の専門課程に直結しているので、仏教学部、文学部、経済学部、法学部の四学部に分れ、仏教学部は禅学、仏教学の二学科に、文学部は地歴、英文、社会、国文、哲学の五学科に、経済学部は経済学、商学の二学科に、法学部は現在のところ一学部一学科、短大は目下のところ国文科であるが、右の組織からいって、本来ならば、一学科から少くとも一論文を掲載すべきであるが、このたびは、準備不十分のため、そこまで行かなかつた。そのため、このような小冊子に終わったのであるが、逐年これは、右の目標に向って充実して行くつもりである。

版に付するに当って、聊か事情を述べ、読者の方々、及び大学関係の方々の御指導と御激励を念願し発刊のことばとしたい。